



## 「地域ミュージアムの情報システムを活用した学習の拡張 —芽室町立上美生中学校・とかち田園空間博物館・多摩美術大学の連携」

### ktmプロジェクト

<北海道河西郡芽室町立上美生中学校・多摩美術大学（東京都）>

#### ねらい・目的

学校における学習を情報技術が支えるには、情報システムの構築とその運営を担う組織が必要となる。現在、それを学校が担うには高いハードルがある。本実践では、地域のミュージアムが管理運営する情報システム（地域情報集積インターネットサービス）を学習環境として利用した事例とその成果を報告する。その目的は、インターネットの活用によって、地域社会との相互交流が可能となる学習環境を形成すること。さらに、生徒の学習内容の社会化と意欲の向上をねらいとした。

#### 内容

本校は、2006年度から総合的な学習のプログラムの一部で、北海道十勝地域の生活者情報を集積し公開するミュージアム「とかち田園空間博物館」の情報サービス「a-muse（アマミューズ）」と、その設計開発にかかわった多摩美術大学情報デザイン学科と連携した表現ワークショップを実施している（写真）。その内容は、「調べること・表現すること」に焦点をあてた学習活動である。中学校、ミュージアム、大学の3者が連携し、インターネットを利用した学習活動のプログラムづくりと運営を展開した。「ktmプロジェクト」と名付けたこの連携は、2006年度の学習テーマ「国際

理解」に始まり、2007年度「福祉」、そして本年度の「環境問題」へと継続している。ワークショップの内容は、生徒たちが自身や彼らの生活圏に着目し、そこにある事実を丹念に調べ記録すること。記録を集積すること。そして、集積した記録を構成した表現作品（文章や視覚表現）を制作し（図）、公開することである。調べたものごとの記録には、携帯電話を利用し「携帯写真メール」として「a-muse」へ投稿・集積する。この時、投稿した記録物は実時間で「a-muse」で閲覧することが可能である。

さらに、これら記録物とミュージアムが提供するソフトウェアを使って構成的な表現作品を創作し、「a-muse」にアップロードして公開した。最後に、「a-muse」を閲覧するかたちで学習成果の発表を行った。この学習過程と結果のインターネット閲覧は、学内の生徒と教職員そして地域の保護者らにとどまっていない。遠隔地に住む山村留學生徒の保護者、さらに、海外提携校である米カリフォルニア州トレーシー市のジェファーソン校にまで広がり、それぞれとの交流が促進されている。

※「ktm（ケーティーエム）」とは、「kamibi+tamabi=manabi」の略によるプロジェクトのニックネームである。

#### 実践結果（今後の課題）

##### (1) 学習環境の広がりの実現

地域ミュージアムが提供するインターネット展示空間やソフトウェアを利用することによる学習環境の拡張が可能となった。また、中学校の自律的な授業づくりのために大学より提案された情報サービス利用、および情報技術（携帯電話、デジタルカメラ、パソコン等）利用のノウハウの蓄積が実現できた。今後の課題は、情報サービスを利用した学習と合わせて、紙や手を使った記録の整理と表現を組み立てる活動プログラムづくりの検



写真・大学生の支援を受け、パソコンに表現作品を制作

討である。

## (2) 表現とインターネット活用のリテラシーの学習

この連携は、学習環境を学校の外に広げ、学びの過程と結果が地域に開示される事態をもたらした。生徒は、開示される学習の過程と結果を他者に開示する作品として整えるために、大学の情報デザイン教育研究の成果を応用することができた。また、それらを即時にインターネットで公開できることを学ぶと同時に、インターネット公開における個人情報保護法等の課題にふれることができた。表現する生徒にとっても、それを閲覧する他者にとっても、「わかる」形を創る表現力を向上させる学びの継続が重要であることがわかった。

## (3) 学習テーマへの理解の深まり

生徒は、総合学習のテーマを「表現」の対象として捉えることから、自己と深くかかわることとして理解することができた。さらに、インターネット公開をとおして、自己や他者を地域の中に位置づけて理解した。このように、生徒の実態や発達段階をふまえた授業を実現することができた。

## PR (特徴・工夫・努力した点など)

この実践を実現するために、次の点において工夫している。

### (1) 地域ミュージアムおよび保護者との協力体制をつくること

実践にあたり、ミュージアムを運営する主体(今回は地域行政担当者)との相互理解と協力体制を整えた。また、インターネット公開に向けた保護者との合意形成づくりに努めた。これらの協力体制のもと、ミュージアムサイト閲覧による「リアルタイム授業参観」を実施し、地域の保護者と遠隔地に住む山村留学生の保護者にむけての開示を実現した。

### (2) 中学校と大学の連携をつくること

当該ミュージアムの情報システム開発にかかわった大学との連携「ktmプロジェクト」を実現した。この連携では、中学校がテーマとする自己理解、他者理解、表現学習の研究と、大学がテーマとする学校教育課程における表現活動や道具環境の研究が融合するかたちとなった。具体的には、

図・生徒の作品(嵐山おくのほそ道)



情報システム利用による「調べ・表現」の学習プログラムづくりを協同で行った。また、共同実施における中学教員と大学メンバーの役割を、時間をかけて構築した。その結果、中学教員が学習内容を指導、大学メンバーが表現技法の指導を担当することとした。

### (3) 表現をとおして学ぶプログラムづくり

中学校と大学が共同し、生徒たちの自己体験を基盤とする学びの流れを構築した。具体的には、生徒たち自身が自己体験を記録・集積し、それらを構成した表現作品を創作して公開する流れを考案し、実現した。このプログラムは、従来の学習環境にミュージアムという社会的な装置がもつ情報システムを埋め込んだものであり、情報システムを学習環境の一部として利用する仕組みである。

### (4) 海外提携校との交流

海外提携校である米カリフォルニア州トレーシー市のジェファソン校の生徒たちと情報や作品の交流活動を行った。今後も、インターネットを活用した交流活動を継続していくことによる学習環境の広がりによって、生徒自身の学習そのものが広がりをもつことが期待できる。

備考(実践の参考となる公開中のHPアドレス、写真、資料等)

とかち田園空間博物館<キーワード「ktm」で検索すると、本実践の活動の様子や作品を閲覧することができる>

<http://www.tokachi-a-muse.jp/>

(注) 本実践にかかわる多摩美術大学の研究の一部は、独立行政法人科学技術振興機構講座的創造研究推進事業の支援を受けている。